



北清ノ形勢切迫ニ付一個師團ノ動員ヲ
為スノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

明治三十三年六月二十六日


内閣總理大臣侯爵山縣有朋




山縣

局甲三二

明治三十三年六月廿五日 内閣書記官

内閣總理大臣 

内閣書記官長 

外務大臣

西

大藏大臣

野

海軍大臣

権

文部大臣

小

逓信大臣

西

内務大臣

西

陸軍大臣

大

司法大臣

西

農商務大臣

大

近日北清ノ形勢日ニ非ニシテ目下各國亦遣

ノ兵力ノミニテハ到底鎮定ノ功ヲ舉クル能ハ

サルヲ以テ英國ハ印度政府ニ命シテ大兵ヲ

派出セシノ又佛國ハ陸兵三大隊砲兵一大隊獨
國ハ新ニ二大隊ヲ派遣セントスルノ報ニ接シタ
リ故トモ此等諸國ノ兵ハ急ニ我地ニ到ル能ハ
ス而シテ我狀頗ル危急ニ迫ル今日ニ方テ列國
共同ノ救護ニ任シ且ツ地理上最モ應急ノ便ア
ル我邦ハ又此ノ任ニ趨クノ必要アリ依テ此際
一令ノ下ニ出兵シ得ヘキ為一個師團ノ動員
ヲ為スヲ要ス

近日北清ノ形勢

日ニ非ニシテ目下各

國派遣ノ兵力ニ

ニテハ 勿レ 陸 結 空 ノ

切 多 柔 々 ノ 能 可 儿

ヲ 以 テ 吳 國 ノ 印 後

為 府 人 命 之 多 大 兵

ヲ 出 出 出 シ ヲ 又 佛 國

ハ 陸 兵 以 テ 大 隊 砲

兵 一 大 隊 獨 獨 國 新

ニ 三 大 隊 多 甚 甚 遺

ロントスルノ 報 接

多し能レトモ此等諸

國ノ兵ハ急ニ神地

ニ到ル能ハス而シテ

神收領ハ先急ニ

西ニ今日ニ方テ到

國者自ノ救後

但し是ハ地理上最

初メ島ノ便ニ示

日一長占本五

初之為ノ便ニ示
邦ノ後息此ノ任
之趨クノ必要アリ依
テ此情一ムトト

三十三年六月廿五日

田

新、館息止、信

之趨、必要あり依

于此、情一、心一、下、

出兵、之得、八、年、為、一

個、所、園、ノ、勅、負、樹

園、ヲ、為、ス、ク、要、ス

三十三年一月廿五日

臣、

過日北清ノ事変ニ對シ閣議決スル所ノ要
 旨ハ我邦ノ責任頗ル重大ナルト財源豊
 ナラス軍資乏キ以テ先ツ英國其他各
 國ニ照會シ然ル後方針ヲ決定セトスル
 ニ在リシモ尔後形勢日ニ急ト危急ヲ報シ
 又猶豫ハハカラサルモノアリ因テ更ニ熟考
 スルニ列國ノ援軍未ダ遽ニ到ラズ北清
 ノ形勢益々急シ告ケ列國共同ノ命運
 殆ト我ノ決意如何ニ係ル時ニ際シテ我國

巨艦
 四
 六

未
 巨艦
 四
 六

ハ宜ク速ニ方針ヲ定メ列國ヲ助ケテ長
驅北京ヲ突クカ又ハ天津連合軍ノ急
ヲ救ヒ其ノ覆亡ヲ晚レシムルニ止ムルカニ
者其ノ孰レヲ擇マサルヘカラス今清兵
北京及蘆臺方面ヨリ天津ヲ合撃
セントシ其ノ相距ル既ニ甚ク遠カラス
而シテ天津ニ在ル列國連合軍ハ無慮
二萬ニ超エス孤軍ヲ以テ客地ニ據リ
加フルニ糧壁堅カラス糧食盡テナラサ
ルヲ以テ不勢久ク防禦ニ堪フル能ハ

サルヘシ英ハ印度ヨリ佛ハ安南東京ヨリ
各々兵ヲ派シテ之ヲ救ヒト欲スト雖其
ノ太沽ニ達スルハ蓋シ本月下旬ヨリ八
月上旬ヨリ前ナリ得ニ獨ノ遣兵ノ如キ
ニ至テハ早キモ九月初旬ナラサルヘカラス
夫レ斯ノ如クモ任其久ニ彌リ外ハ救援ノ臻
ルナク内ハ太沽天津ノ道ヲ絶テ糧
秣神藥漸ク盡ルルニ至ラハ天津ハ遂
ニ陥落ヲ免レサルヘシ若シ天津ニシテ
陥落セバ太沽亦遂ニ守ル能ハス或ハ

不幸全軍覆没ヲ見ルニ至ルモ亦未
知ルヘカラスナリ若シ不幸ニシテ此ノ
敗ヲ看ルニ至ラシカ四方ノ亂徒相競
クテ起リ延ヒテ南西地方ニ及ハハ勢
各地總督ノ力之ヲ制スル能ハス全
清國ヲ舉ゲテ其政府ノ境域ト化シ
去ルヘシ此ノ時ニ當リハ列國大兵ヲ
ト雖復タ容易ニ之ヲ鎮壓スル能ハ
ザルナリ此ヲ以テ軍界上ヨリ云ハ
我邦ハ宜ク先々自^{乃至三國}二個師團ノ兵ヲ

發シテ天津ヲ救ヒ列國諸軍ト共ニ
道ヲ分テ北京ヲ突キ清國政府ヲ脅
懲シテ反正ノ實ヲ舉ゲシムヘシ若シ曠
日彌久結氷ノ期漸ク近クニ迄テ初メテ
兵ヲ出サハ北京ノ攻畧得テ望ムヘカテ
ス而シテ禍亂漸ク大ニ征服愈々困マレ
又翻テ政界上ヨリ之ヲ觀レハ英佛獨ハ
皆遠ク師ヲ出スヲ以テ到底多數ノ兵
ヲ遣ル能ハス露ハ其ノ境ヲ接スト雖西
伯利亞ヲ燭シテ急ニ大兵ヲ送ル能ハス

北清地方：大軍ヲ行ルハ便アル者ハ獨
リ我邦アルノミ今ヤ各國公使ハ北京ニ
在テ危急ニ迫リ孤軍僅ニ天津ヲ守テ
赴キ援リル能ハス況ヤ敵軍優勢ヲ
以テ之ニ臨ミ人心洶々日ニ救援ヲ望
ムル時ニ方ニ我邦ハ地理ハ便ク有シ
數十万人陸兵ヲ擁ヒ各國或ハ之ヲ促
スモ僅ニ數千ヲ發スルニ止リ敢テ邊ニ
赴キ援ケスハ内ニ國民ノ厚望ニ對シテ
政府當然ノ職責ヲ怠ルノ儀ヲ免シ難

ク外ハ列國遂ニ我ヲ異國アリト疑ヒ又
ハ前年ノ仇ニ報フト爲シ精兵永ク解ケス
怒ヲ後來ニ構フニ望ラレコトヲ恐ル今ヤ
列國ノ援兵未ク到ラス天津太沽ノ軍
敵ニ苦ムノ時ニ方ニ急ニ大兵ヲ以テ之
ニ赴カハ以テ彼ノ地ハ重圍ヲ解キ進テ
北京ノ亂ヲ平クルコトヲ得ハク撥亂ノ
功概シ我ニ歸シ而シテ各國ハ永ク
我ヲ徳ラヤシ
且ツ北清ノ禍亂ニシテ久ク治マラス南

清亦其禍ヲ被ルニ至ラハ我國民經
 濟ハ過半敗亡ニ歸シ財政亦遂ニ其
 一息ヲ免ルコトヲ得ル之ヲ要スルニ軍
 略上ニ於テスルモ又政略上ニ於テスルモ
 我邦ハ急ニ師ヲ出スヲ以テ利アリト
 スハク此ノ際既ニ動員ヲ命ジタリ一師
 團ノ兵ハ先ツ急ニ之ヲ發遣スルノ
 必要アリ候

明治三十三年七月二十日 陸軍

有田



陸軍中將寺内正毅清國へ派遣セシ
 メラルルニ付訓令ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

明治三十三年七月十一日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋